

プログラム

1. SUZUKI Toru (National Institute of Population and Social Security Research)  
Introduction: Trends of Domestic and International Migration in Eastern Asia
  2. CHO Youngtae (Seoul National University)  
Can Korea Ever Become a Multi-cultural Society?
  3. LIN Ji-Ping (Academia Sinica)  
The Role of Migration in Shaping Taiwan's Contemporary Population and Health Care Policy in the Context of Ageing Population
  4. MA Xin-Xin (Hitotsubashi University)  
Domestic Migration and Discrimination against Migrants in China
  5. CHEUNG Paul (National University of Singapore, JSPS Fellow)  
Population Ageing and Replacement Migration: Perspectives from Singapore
- Comments:  
HAYASHI Reiko (National Institute of Population and Social Security Research)

鈴木報告は日本・韓国・台湾・中国・シンガポールの低出産・高齢化と国内・国際人口移動を概観した。Cho（曹永臺）報告は韓国の外国人人口の動向と展望を分析した。Lin（林李平）報告は台湾の人口移動と高齢者介護の関連を扱った。Ma（馬欣欣）報告は中国の農民工の都市流入と戸口制度の問題点を分析した。Cheung 報告はシンガポールにおける移民政策の問題点を指摘した。林玲子国際関係部長によるコメントに続きフロアからも活発な質問があり、有意義な討論が行われた。

（鈴木 透 記）

## 順天堂大学「持続可能な高齢化社会」フォーラム

2016年12月17日、東京都千代田区御茶ノ水の順天堂大学にて、「持続可能な高齢化社会」フォーラムが行われ、日本とシンガポールにおける人口高齢化およびその対策の概況および、日本における自治体（愛知県東郷町）や企業の取り組みについての講演が行われ、筆者も「健康をどう測るか～その推移と展望」と題する講演を行った。特にシンガポールの概況は、前国連統計局長のポール・チュン国立シンガポール大学教授が、SDGs（持続可能な開発目標）という文脈における持続可能な高齢化について問題提起し、アジアではいち早く1986年に少子化対策を打ち出したシンガポールにおける課題についても議論された。会場からは、学生から先進の高齢者のまちづくり事業などと共に、高齢者の貧困にどう対応するのか、という質問などが提起された。

（林 玲子 記）

## 「高齢化する日本と外国人ケア人材」ワークショップ（長野県木島平村）

2017年1月22日に「高齢化する日本と外国人ケア人材」ワークショップが、長野県下高井郡木島平村の木島平村若者センターで開催された。このワークショップは、神谷浩夫教授（金沢大学）の科研費研究グループが主催し、インドネシア、フィリピン、ベトナムからの研究者による報告の他、日本人研究者によるドイツの外国人介護事情、名古屋地域の介護サービス業の雇用事情などの報告が行わ